談 話 室

International Symposium on Surface Nano-Control of Environmental Catalysts and Related Materials (6th Iketani Conference)—Toward Understanding Material Surfaces and Surface Reactions in an Atomic /Molecular Scale —報告

岩澤康裕・福田安生*・菊地英一**

東京大学理学系大学院　〒113　東京都文京区本郷7-3-1
*静岡大学電子工学研究所　〒432　静岡県浜松市城北3-5-1
**早稲田大学理工学部　〒169　東京都新宿区大久保3-4-1

(1997年4月7日受理)

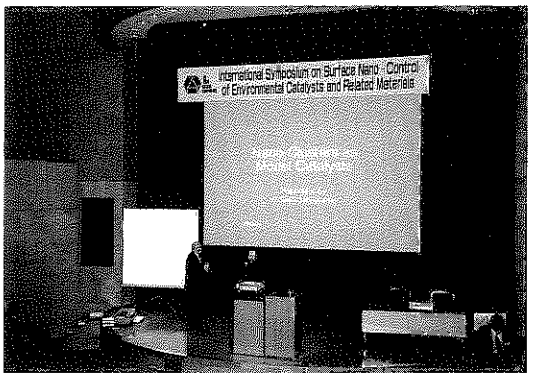
Report on International Symposium on Surface Nano-Control of Environmental Catalysts and Related Materials (6th Iketani Conference—Toward Understanding Material Surfaces and Surface Reactions in an Atomic/Molecular Scale—

Yasuhiro IWASAWA, Yasuo FUKUDA* and Eiichi KIKUCHI**

Graduate School of Science, The University of Tokyo
Hongo 7-3-1, Bunkyo-ku, Tokyo 113
*Research Institute of Electronics, Shizuoka University
Johoku 3-5-1, Hamamatsu, Shizuoka 432
**School of Science & Technology, Waseda University
Ohkubo 3-4-1, Shinjuku-ku, Tokyo 169

(Received April 7, 1997)

本国際シンポジウムは日本表面科学会創立15周年を記念して1996年11月25日（月）-27日（水）の3日間，早稲田大学国際会議場で行われた。午前中は1会議で特別講演が開催され，午後は招待講演，口頭発表，ポスター発表を2会場で行った。特別講演者はProf. Somorjai, Ibach, Ertl, Haller, Tsong，および寺倉，乾，秋鹿，大見先生で，それぞれ触媒や表面科学の分野を代表する方々であった。多数の会員の方々が本シンポジウムに出席されていたので，ここでは内容についての紹介は省く。このシンポジウムではR&Dセッションが設けられ，企業からの最新の成果が発表された。発表件数は特別講演，招待講演，口頭発表，R&Dで56件，ポスター発表で198件，合計254件であり，予想を大きく越えてしまった。このうち海外からの発表は38件であった。また発表内容別にみると触媒，表面（薄膜を含む）関係の発表件数はほぼ半々であり，均衡がよくとれていたように思われる。



参加登録人員は518人であったが，アブストラクト集の印刷部数を越える当日参加者のうち学生については無料とした。バンケットは椿山荘で27日に開催された。約200人の参加者があり，盛会のうちに3日間の行事を修了した。

予想をはるかに越える論文発表者のため，プロシーディングのページ数が大幅に増加することになり，投稿された方々にはページ制限を厳格に守るようにお願いせざるをえませんでした。そのような理由で論文編集作業が多少遅れています。ご了解下さい。

このシンポジウムを開催するにあたり，坂田　亮先生（杏林大，慶応大名誉）には池谷財団からのサポートを得るのに大変なご助力を頂きました。編集作業でご苦労頂いた，村田（電通大），八百（東北大，金研）先生，会場を手配していただいた，早稲田大学の大坂，大島先生，募金を担当された馬場先生（中央大，都立大名誉），総務担当の吉原（金材技研），工藤（成蹊大），杉井（セコム）先生をはじめ，アドバイザリー委員会，組織委員会，プログラム委員会，募金委員会の諸先生，事務局の方々，アルバイトの学生諸君に感謝致します。最後になりましたが，絶大なるサポートを頂いた池谷財団理事長池谷正成氏に深く感謝致します。